

河川区域を利用した商業施設において来訪者が求める施設要素に関する一検討

宮城県仙台二華高等学校 高校生 ○影山 舞
 東北大学大学院工学研究科 学生会員 池本 敦哉 柳原 駿太
 東北大学大学院工学研究科 正会員 風間 聡
 宮城県仙台二華高等学校 非会員 深澤 恭子

1. はじめに

平成17年から平成22年にかけて、宮城県内を流域とする一級河川の流域内人口は計58,211名減少している¹⁾。この現状を受け、国土交通省では「豊かな自然などの観光資源や都市部の貴重なオープンスペースとしての価値を有する河川敷において、治水上、利水上または河川環境上の支障が出ないように配慮しつつ、快適でにぎわいのある水辺空間の創出を推進」している。この取り組みの一環として平成28年には河川敷地占有許可準則が一部改正され、民間業者への占有許可期間を3年以内から10年以内へと延長された²⁾。また、地域と一体となり水辺空間の形成を図る取り組みを「かわまちづくり」と称し、かわまちづくり事業の中から毎年「かわまち大賞」を選定・表彰している³⁾。これらの施設は河川の人気向上に大きく貢献し、同時に認知度の向上に繋がっている。

宮城県名取市閑上に位置する「かわまちてらす閑上」も閑上地区かわまちづくりの1つ⁴⁾であり、令和3年度かわまち大賞を受賞した⁵⁾。本研究は、河川空間を利用した施設の更なる人気向上に向け、施設において必要とされる点を明らかにすることを目的に、かわまちてらす閑上を対象として、利用者の来訪目的、施設の魅力などを調査した。

2. アンケート調査

2.1 調査概要

本研究は、名取市閑上に位置する、かわまちてらす閑上を対象とした。訪れた人のうち計53名にアンケート調査を実施した。調査は、2022年11月20日の11時から13時の間に行った。図-2に、かわまちてらす閑上の様子を示す。

2.2 アンケート項目

回答者の情報として、性別、年代、自宅をおく県、自宅からの時間や来訪回数である。かわまちてらす閑上に関するアンケート項目は、次のとおりである。①かわまちてらす閑上に来た理由を1つ選択してください、②目的としていたお店の種類を選び、そのお店の名前をすべて記入してください、③①で選択し



図-1 かわまちてらす閑上
 (2022年11月21日 影山舞撮影)

表-1 アンケート回答者について

| 男：女 | 宮城県内 (県外) | 平均来訪回数 |
|-------------|---------------|--------|
| 41.5%：58.5% | 64.2% (35.9%) | 2.8回 |

た理由の他に、「川が近くにあるから」という理由は今回訪れた理由にどれくらい関係しますか、④かわまちてらす内の移動は負担に感じましたか、⑤かわまちてらす閑上を利用した感想について、下記の項目に関して、1~5の中から最も近いものをそれぞれ選択してください、⑥川沿いにどのようなものがあつたらまた訪れたいと思いますか？内容と理由を教えてください、とした。来訪が2回目以降の回答者には、「再度来訪した理由」について質問した。⑤の選択式のアンケートは、5段階評価である。どのような人が来訪しているのかを明確にするため、性別、年齢や自宅からの所要時間などの属性情報を調べた。

3. 結果・考察

紙面の都合上、本研究の考察は主に、記述式アンケートの結果を対象とする。

3.1 基礎情報

アンケートの回答者について表-1に示す。回答者は、女性が多い結果となった。宮城県からの来訪者が多い。初回来訪者の割合は35.8%、来訪が2回目の回答者は13.2%、3回目以上の来訪者は50.9%であった。平均来訪回数は2.8回であった。宮城県の回答者のう

ち、自宅からかわまちてらす閑上までの平均所要時間は 32.5 分であった。対象地域周辺からの集客が主であることが考えられる。

3.2 選択式アンケート

選択式アンケートの回答状況を表-2、表-3 に示す。平均値は、開放的、軽食に関する項目が最も高く、アクティビティに関する項目が最も低い結果となった。

3.3 記述式アンケート

複数回かわまちてらす閑上に来訪した人の来訪理由として、次のようなものが挙げられた。①おいしい料理を楽しむため、②景色や解放感・雰囲気を楽しむため、子供と一緒に訪れることができるため、③子供と一緒に訪れることができるため、である。①について、具体的に挙げたのは海鮮、ラーメン屋、地元の海鮮を使用したおにぎり屋、せり鍋のお店などで、地元の食材を使用した料理を目的としている人が 13 人であった。中には「地域活性化に貢献できる」という意見があり、地元の食材を積極的にアピールすることで来訪者の意識の向上に繋がっているとわかる。②について、開放的であることや川沿いの景色を楽しむことができるという点を評価している意見が 6 個挙げられた。かわまちてらす閑上は屋外での飲食提供が主であり、敷地の中央にフリースペースを設けることで気軽に誰でも座ることができる。先述した意見のほかに「気軽に立ち寄ることができる」という意見から、かわまちてらすがオープンファザードであることや屋外のベンチ、テーブル席の設置が再来訪に大きく繋がっているとわかる。③について、「公園があり、子供が遊べる場所があるから」等という意見が主に子育て世代である 20 代～30 代の男女から 3 個挙げた。子供を連れていても、屋外にて飲食することができるかわまちてらす閑上は比較的過ごしやすいという意見や、子供が成長したことで食べることでできる物が増えたからという意見もある。子連れでも気軽に足を運ぶことのできる施設は限られているため、子育て世代のニーズに据えていると考えられる。

また、もう一方の質問である「川沿いにあつたらいいもの」に関して、次の意見が挙げられた。④川を利用したアクティビティの充実、⑤子供と遊ぶことのできるイベント、サービスの充実、⑥ペットと遊ぶことのできる、ドッグランなどのスペースである。④について、「ボートに乗りたい」「川で遊びたい」という意見が複数見られた。かわまちてらす閑上は、川を利用したアクティビティとして、SUP 体験、クルージングがある。しかしながら、本調査の実施時期において SUP のような川への着水を伴う川のアクティビティの利用は少ないと考えられる。この結果は、3.2 の結果と関連している。季節に応じた川のアクティビ

表-2 選択式アンケートの各項目の平均値 1

| 店の種類が豊富 | 川のアクティビティが豊富 | 景色が魅力的 |
|---------|--------------|--------|
| 4.0 | 2.8 | 4.3 |

表-3 選択式アンケートの各項目の平均値 2

| 地元の特産物を堪能できる | 開放的で心地よい | 軽食を気軽に食べられる |
|--------------|----------|-------------|
| 4.1 | 4.6 | 4.5 |

ティの充実を図ることで、調査日と類似した状況において、異なる層の集客が期待される。子供と遊べるイベントが欲しいという意見と共通する点もある。本調査の回答の中に、飲食店として楽しむだけでなく名取川そのものを楽しみたいという層が一定数いたため、定期的なイベント開催が求められているとわかる。

4. おわりに

本研究は、河川空間を利用した施設において必要とされる点を明らかにする事を目的に、かわまちてらす閑上を対象にアンケート調査を実施した。その結果、利用者の開放感や地域活性化、地域と一体化したサービス提供を行うことによりリピーターの増加に繋がることが示唆された。今後は、アンケート調査の規模を拡大し、来訪者が河川区域を利用した施設に対して要求する項目を整理する必要がある。

謝辞：本研究は、三菱みらい育成財団による助成を受けたものである。ここに記して謝意を表する。

参考文献

- 1) 国土交通省：一級水系内人口の推移，2010。
https://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kasen_db/pdf/2022/2-1-2.pdf，最終アクセス 2023/01/19.
- 2) 国土交通省：河川敷地占用許可準則の一部改正について，2016。
https://www.mlit.go.jp/river/hourei_tsutatsu/riyou/kasen_riyou/kyoka/h280530_kyokutyuu.pdf，最終アクセス 2023/01/19.
- 3) 国土交通省：かわまちづくり計画策定の手引き，第 1 版，2020。
<https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/pdf/tebiki.pdf>，最終アクセス 2023/01/19.
- 4) 国土交通省：河川空間のオープン化活用事例集，2019。
https://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/shigenkentou/pdf/jirei_kasenkukan_1908.pdf，最終アクセス 2023/01/19.
- 5) 国土交通省：水辺とまちの未来創造について 2019。
https://www.zenken.com/kensyuu/kousyuukai/H31/658/658_funahashi.pdf，最終アクセス 2023/01/19.